

展示品の  
みどころ

いずさんこんげんりゅうぞう  
伊豆山権現立像



銅造 鍍金  
像高49.2cm  
鎌倉時代(13世紀)  
静岡 伊豆山神社

たてえぼしをかぶり、あげくのほろの上に  
袈裟を懸け、指貫をはいて香を履く  
伊豆山権現像。伊豆山神社には、形  
制及び服制を同じくする像が複数  
存しており、このうちの1軀の銘記

に「走湯権現神体」の文言があることから、本像も伊豆山権現像と確かめられる。鋳型の土を像内に残したいわゆる「くるみ中型」で、両足柄の大半を含む全容を一鋳し、表面に鍍金をほどこす。

近年まで全身に腐蝕が広がり、とりわけ面相を覆う分厚い錆が像容の正確な把握を困難にしていた。このたび奈良文化財研究所の協力のもと保存修理を実施し、錆を除去したところ、下層から当初の威厳ある顔立ちが現れ、鍍金も多く残存することが判明した。さらに、錆の成分分析では硫酸が多く検出されており、あるいは源泉の涌出する神聖な場にまつられた像かと想像がふくらむ。

単純な面と線により構成された強装束に比して、額と上下臉の微細な皺や、皮膚のわずかな起伏まで克明に描写した面相は見事で、こうした頭体の対照表現がいつもの精彩を与えている。同様の手法は、神奈川・明月院上杉重房像や同・建長寺北条時頼像にも用いられるが、この種の俗体の武家肖像彫刻が鎌倉地方発祥とみられることからすれば、伊豆山権現像の姿もまた鎌倉との密接な関わりにおいて成立したと考えられる。

いま失われた両手の持物は、「走湯山縁起」や絹本著色諸神集会図(米国・バーンシュタインコレクション)中の「走湯」と脇書される男神像を参考にすれば、数珠と錫杖だった可能性が高い。この組み合わせからは八幡神が連想され、「縁起」には八幡神と走湯権現が鎮護国家のために芳契を結んだとの興味深い一節がある。袈裟を懸け、数珠と錫杖を手にした伊豆山権現像の姿には、武家の守護神たる八幡神のイメージが重ね合わせられていると解したい。 山口 隆介(当館学芸部研究員)

◆2月6日～3月14日 特別陳列「銅造伊豆山権現像修理記念 伊豆山神社の歴史と美術」にて展示

おうばらでらさんじゅうのとうふくばち  
栗原寺三重塔伏鉢



国宝  
銅製 鍍金  
高さ35.3cm、底径76.4cm  
奈良時代・和銅8年(715年)  
奈良 談山神社

栗原寺は、飛鳥の東  
忍坂街道を見下ろす丘  
陵地に位置する斜面を  
削って造った狭い敷地

に、今でも基壇跡や礎石を見ることができる。奈良盆地の中の広大な伽藍を見慣れた目には、実にかわいらしいお寺と映るかもしれない。

本品は、この栗原寺の三重塔の伏鉢である。名前の通りどおり鉢をひっくり返したような形をしている。釈迦の遺骨(舍利)を納めたインドの仏塔(ストウパ)の面影をもつ象徴的な部材である。屋根の上に乗せられ、ここから天を突く柱擦管が立ち、相輪や水煙、宝珠といった塔特有の飾りが付く。

さて、本品を国宝たらしめているのは、表面に刻まれた15行、計172字の銘文である。最初は寺の四至(境域)が示される。東の境界は「竹原谷」の東の峯、北の境界は「忍坂川」と、かなり具体的だ。正確な場所を特定し難い部分もあるが、小さな伽藍にしてはかなり広い寺域をもっていたことが分かる。続く銘文では、仲臣大嶋が草壁皇子のためにこの寺を発願したとあり、大嶋の死後は比賣額田が引き継ぎ、足掛け22年もの造営を続けたという。仲臣大嶋とは天武天皇を支えた重臣で、『古事記』の元となった『帝紀』(天皇の系譜等を記した書物)の成立に関わった教養人である。草壁皇子の若死を、大嶋もわが子を亡くしたように無念に思ったのであろう。一方、造営を引き継いだ比賣額田は謎の人物。一説には天武と天智両天皇に愛された有名な万葉歌人、額田王とも言うが、確証を欠く。ともあれ、丈六の釈迦像を安置する金堂が出来、平城京に遷都する頃には本品を乗せた三重塔が完成した。銘文の最後は、この功德により草壁皇子や大嶋が「仏果を得ること」、すなわち極楽浄土への到達を願う文で結ばれている。本品は、薬師寺東塔の擦銘と並ぶ、古代伽藍の貴重な生き証人である。

吉澤 悟(当館学芸部列品室長)

◆～3月14日 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

開館日時(1月～3月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

- ・若草山焼きの日(1月23日)、節分の日(2月3日)は午後7時まで
- ・なら瑠璃会の期間(2月8日～14日)は午後8時30分まで
- ・東大寺二月堂修二会の期間中、3月1日～11日、13日、14日は午後6時まで、3月12日は午後7時まで
- ※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日、1月1日(金)

- ・ただし、1月11日、2月8日、3月7日、3月14日、3月21日は開館し、1月12日(火)、3月22日(火)は休館

●=国宝、◎=重要文化財

観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※若草山焼きの日(1月23日)は午後5時以降に観覧される方は団体料金を適用します。(レイト割引)
- ※節分の日(2月3日)は無料観覧日です。
- ※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額となります。
- ※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します。(子どもといっしょ割引)
- ※青銅器館は無料になります。
- ※なら仏像館は、改修工事のため休館中です。



●:バス停

〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

